

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：土木費 項：道路橋りょう費 目：道路総務費

事業名 木曽三川サイクルルート構築推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

県土整備部 道路維持課 安全防災係 電話番号：058-272-1111(内4624)

E-mail : c11657@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 10,000 千円 (前年度予算額： 10,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 収 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,000	5,000	0	0	0	0	0	0	5,000
要求額	10,000	5,000	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・国が「木曽三川を活用したサイクリツーリズムを推進する首長等との集い(令和6年)」を開催し、木曽三川サイクリツーリズム推進の機運が高まっている。
- ・木曽川中流域では、流域5市町（美濃加茂市、各務原市、可児市、坂祝町、愛知県犬山市）の官民連携組織「木曽川中流域観光振興協議会」が令和3年に設置され、「日本ライン・KISOGAWAリトリートパークづくり」を統一コンセプトに賑わい創出による誘客促進、観光消費額拡大に取り組んでいる。
- ・サイクリイベントでは、岐阜の玄関口岐阜羽島駅とリバーポートパーク美濃加茂を繋ぐ「ツール・ド・KISOGAWA」や「木曽ポタ・パークリンク大会」が毎年好評である。
- ・これらを契機に、愛知県内沿川市町も含めた自治体連携による機運が高まっており、観光国際部と連携し、木曽川をはじめ、長良川、揖斐川を含む木曽三川のサイクリングルートを整備し、国内外に誇れる新たなサイクリツーリズムを推進する。

(2) 事業内容

観光資源活用課が推進するサイクリツーリズム施策に合わせて、木曽三川沿川の観光資源を巡るサイクリングルートを設定し、訪れたサイクリストが安全に走行できる環境を整備する。令和8年度は観光資源活用課と連携し、沿線市町村、国、警察と調整のもと長良川沿川でのサイクリングルートの検証、通行環境調査、今後必要となる案内看板や路面標示等の整備計画や既存施設の活用・修繕計画を策定する。

- (ア) 木曽川と長良川を繋ぐルートの走行環境調査 5,000千円
 - ・ルートの魅力的なスポットの調査、通行注意箇所、既存施設等の課題を整理
- (イ) 木曽川と長良川を繋ぐルートの整備計画策定 5,000千円
 - ・上記調査を踏まえ、サイクリストが安全・快適に走行できる魅力的なルートの整備や、既存施設の活用及び修繕するための計画を策定

(3) 県負担・補助率の考え方

- (ア) 県10/10
- (イ) 県10/10

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	10,000	調査委託料等
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
3 地域にあふれる魅力と活力鶴く
(2) 次世代を見据えた産業の振興
④世界に選ばれる持続可能な観光地づくり
- ・岐阜県自転車活用推進計画

(2) 国・他県の状況

- ・国において「木曽三川を活用したサイクルツーリズムを推進する首長等との集い」を開催するなど、木曽三川サイクルツーリズム推進の機運が高まっている。
- ・隣県においても、太平洋岸自転車道（静岡県、愛知県、三重県）やビワイチ（滋賀県）、富山県（富山湾岸サイクリングコース）において、国のナショナルサイクルルートに指定されるなどサイクルツーリズムを推進している。
- ・令和7年に木曽川中流域サイクルツーリズム検討会（愛知県部会）が設置され、木曽三川のサイクルツーリズム推進の連携体制が構築された。

(3) 後年度の財政負担

令和7年度に策定した整備計画（木曽川）に基づき、ルート全体で統一されたデザインの案内標識、路面標示等の走行環境整備を各施設管理者で連携して進める。

(4) 事業主体及びその妥当性

行政区域の枠を超えた広域連携による取り組みで、市町行政界を跨いだ整備計画を策定するのは本施策を推進する県の役割であり、県負担は妥当。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

5年ごとに行われるナショナルサイクルルート認定（令和8年、令和13年）に向け、安全に通行できる走行環境整備と観光活用資源課による受入体制整備を連携して進める。

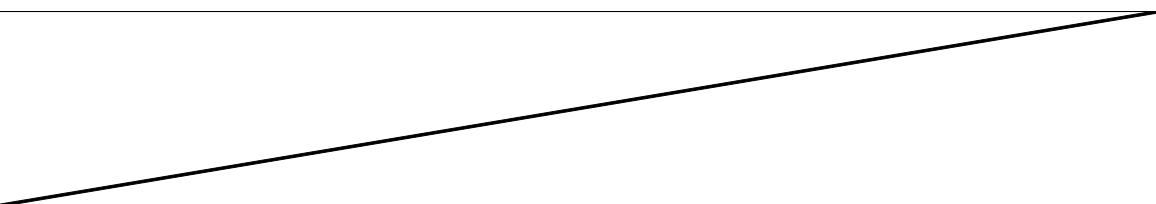
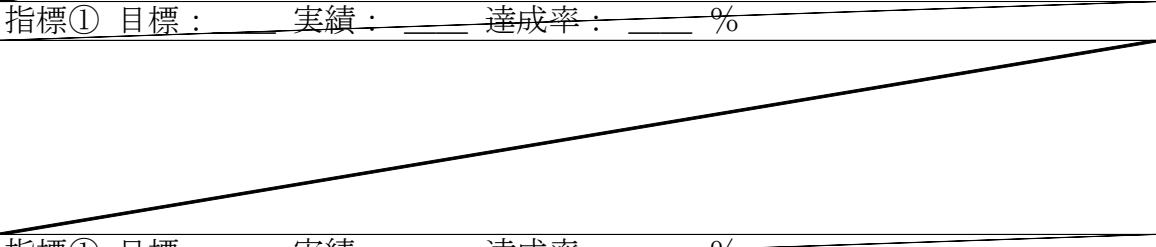
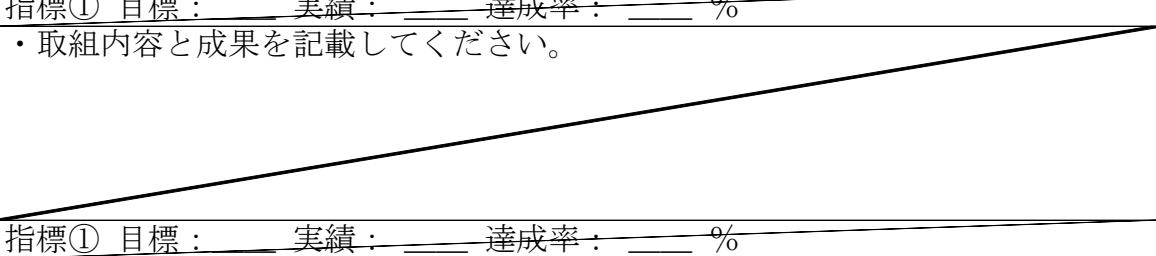
(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

本事業の目的は観光誘客で、道路維持課では誘客を図るための走行環境整備を行うものであるため直接的な目的指標は適切でないため。

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年 度	 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 6 年 度	 ・取組内容と成果を記載してください。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	複数のサイクリングイベントが継続的に開催されるようになり事業の必要性が高まっている。
-----------	--

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価) 2	事業の推進が、継続的なサイクリングイベントの開催に繋がり有効的な成果となっている。
-----------	---

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価) 2	整備計画を基にしたアクションプランにより効率的な事業進捗を図っている。
-----------	-------------------------------------

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

国河川管理者、沿川市町、交通管理者が連携した走行環境整備が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

サイクリングイベントの参加者から、木曽川沿いの風景やルートに高評価が得られており、今後は関係者が調整のうえ、国内外に発信できるサイクルツーリズムを推進していく。

・木曽川におけるサイクルルートの整備計画を策定し、整備方針を決定した。これを長良川にも拡充し、木曽三川一体となった整備により自転車による観光誘客を推進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	